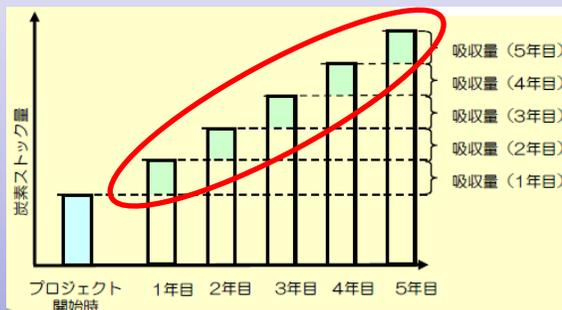


シーンⅡ-9 森林吸収オフセット推進事業

目的

間伐等による森林の二酸化炭素吸収量をクレジット化し市場販売する「森林吸収オフセット制度」の普及を図り、社会全体で森林整備を支える体制づくりを推進します。

- ◆ 間伐を実施した場合としない場合の生長量（＝CO₂吸収量）の差分がクレジットの対象。
- ◆ 条件により異なるが、1ヘクタール当たりの年間吸収量は概ね3～4 t 前後。



事業内容

H27事業費:548千円

- 宮城県内の事業者が取得したクレジットの販売促進支援を通じ、制度の普及・定着を推進します。
- 支援内容
 - ① 環境イベントへの共同出展による普及PR
 - ② クレジット取得事業者の販売支援
 - ③ 宮城県森林吸収オフセット・クレジット普及広報連絡会議の開催
 - ④ 県が発行する冊子類等のカーボンオフセット ほか

カーボンオフセットとは？

- 自ら排出する温室効果ガス量を認識し、削減する努力を主体的に行うとともに、削減が困難な部分の排出量については、他の場所で排出削減・吸収に取り組んだり、他者が実現した排出削減・吸収量等（＝クレジット）を購入すること等により、その排出量をオフセット（＝埋合せ）すること。なお、クレジットの購入代金は、創出者（山元）に還元され、更なる森林整備に役立てられている。

事業効果

CO ₂ 削減効果	－ t-CO ₂
クレジット取得量	16,931 t-CO ₂

税導入後のイメージ



社会全体で森林整備と二酸化炭素排出削減を支える仕組みづくり